



本校の校章は、昭和二十一年、新しい学校制度により、学校の名称が「船橋市立八栄小学校」と改められた年に制定されました。

八栄の「八」と海辺の町ということに因んで、周囲に八つの波しぶき、中には農業の盛んな地区を表す稲穂と凶案化された「栄」と「小」の文字が入れられています。石井彦次氏（当時の保護者）が十六種類のデザインを考案され、その中から全校児童の投票によって選ばれたものです。



「校章・校旗」・・・その余話

八栄小学校校章は、現在東京都立墨田工業高校機械科科長をなさつていらつしやる石井彦次先生のデザインによるものです。

戦後の何もかも乏しい時代、昭和二十一年四月に先生のご長男が八栄小学校に入学されました。その晴れ姿を写真にと連れ立って船橋市内の青木写真館へ・・・ふと帽子に校章のないのに気付き買いに行かれましたところ船橋小学校の

校章を出されました。八栄小学校には校章もないのかと淋しく思われ先生にも相談されて、十六種類ほどデザインされた中から、全校生徒の投票により現在の校章が選ばれました。

八栄の八と海辺の町ということにちなんでまわりは八つの波しぶき、中には農業の盛んな土地柄を表す稲穂、栄と小の字が図案化されて入っています。まだPTAも出来ず、八栄小学校後援会といわれていた頃のことです。

その頃のなつかしいお話も書き添えてみました。教室は全部で六教室、床はぐらぐらしていても落ちそうに鳴っていました。ストーブもないので、お金を集めてストーブを手に入れ、毎朝父兄が交代で火を入れに通ったこと、ガラスが割れたと言っては、障子紙を持って来て張って下さったおかあさん、(当時はガラスは手に入りませんでした。)雨もりや煙突の修理はブリキ屋を営むおとうさんのサービス、戦後のみんなが乏し

く苦しかった頃の心暖まるお話です。

そしていくらか落着いてきた頃、昭和二十八年度の卒業記念に、校旗が贈られました。作成費は三万円だったということです。

(広報部記)

船橋市立八栄小学校PTA広報部編集

『やさかえ』80周年特集号

(昭和四十六年十一月発行)より

※昭和二十八年の三万円は現在(平成二十八年)の約十九万円にあたります。

〈消費者物価指数による比較〉

99.9 (平成28年) ÷ 16.1 (昭和28年) ≒ 約6.2倍
3×6.2=19